

1 学校教育目標

○よく考える子 ○心豊かな子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○皆の人権が守られ、生き生きと生活できる安全・安心な学校 ○確かな学力と豊かな心、健やかな体を本気で育てる学校 ○保護者・地域と連携を深め、信頼される学校
○児童・生徒像	○相手・他者の人権を尊重して、関わり合う子 ○自ら考え、自ら学び、チャレンジする子 ○すすんで体を動かし、心身ともに健康でたくましい子
○教師像	○子どもの人権を守り、児童理解に努める教師 ○日々の授業の充実を目指してチャレンジする教師 ○危機管理(最悪を考え、慎重に、素早く、誠実に、組織的に)を意識し、情報共有・共通実践していく教師集団

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈 現 状 〉

- 児童数354名、学級数12(全学年が2学級)。児童は明るく素直で、学習態度、生活態度ともおおむね落ち着いている。
- 児童の安全安心な校内外の生活に向けて、学校・家庭・地域の三者が連携・協働している。
- 保護者や地域の方によるボランティア活動が大きな支えになっている。(見守り、図書、農園、ホームページ)
- 学校と家庭で平時から情報を共有して関係を築くことにより、児童に関わる危険やトラブル等の未然防止・早期発見・対応に努めている。
- 本校が初任校である教員と、今年度の異動によって着任した教員は、21人中11人である。目指す学校像、児童像、教師像を共有し、指導力の向上や授業の充実(改善)に向けて自己研鑽はもちろん、学年等の教員間でも授業研究を推進している。

〈 前年度の成果と課題 〉

- 全教員がそれぞれの立場で危機管理意識をもち、協力して対応に当たることができた。
- 足立スタンダードの授業についてはほぼ全員が理解し実践している。「虎の巻」を活用した授業研究を小中連携でさらに進めていく。
- タブレット端末の利活用は全学年で取り組めた。習熟学習や撮影、調べ学習やそのまとめ、発表等、学年に応じて学習道具として扱っている。
- 校内研として全教員で算数の指導方法について授業研究に取り組んだ。4月の学力調査の結果を分析し児童の実態を基に、どんな力を身につけさせたかを明らかにして進められた。大きな前進であった。今年度は児童と共に安心できる学級をつくり、児童がより生き生きと学習できることを目指す。
- サマースクールは全学年10日間実施できた。2学年以上では事前・事後テストを行い、効果検証した。多くの児童が得点を上げ達成感を得られた。
- 放課後の図書館開放では毎回30名ほどの参加があり好評であった。今年度は週4回に増やし、読書や本を使って調べる活動の場を充実させていく。
また、CSや開かれの予算で児童用の図鑑やブックトラックを下学年の各学級に設置できた。図書館まで行かなくても日常的に図鑑を手にする環境をつくることができた。7年度はさらに上学年にも広げていく。
- 体力向上については、外遊びの奨励や体育のボール運動、短縄跳びや持久走の強化月間等を通して、投力や走力、俊敏性、持久力が保持増進できた。

一方で多くの学年で課題となったのが柔軟性である。授業の中で体づくり運動やストレッチ等、意図的に取り組ませていくことで改善を図っていく。
 ○学校・家庭の連携・協働により、改善、解消することのできた課題は多くあった。逆に連絡・連携が十分でなく、課題を見過ごしてしまうこともあった。平時から教員と保護者の連携・連絡をより密に行っていくことで、児童の学校生活の安定と成長を図っていく。
 ○ここ3年間、一部の学級学年の経営が安定しない事態になっている。今年度は全教員で学級活動における適切な指導の在り方を研究していく。児童の望ましい集団活動を展開し、よりよい人間関係を築いていくことにより、児童が安心して生き生きと学校生活を送ることができるよう努めていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R5	R6	R7	R8	R9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	体力向上	○	○	○	○	○
3	心の醸成（規範意識・自己肯定感の向上・いじめ暴力暴言の根絶）	○	○	○	○	○
4	保護者・地域との連携・協力による教育活動の充実	○	○	○	○	○
5	特別活動の充実			○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
2 月到達度確認調査において、令和 6 年度の通過率を維持または向上させる。		4 月区調査及び、2 月到達度確認調査（通過率） 国・算の順		自己評価の際に記入					
		2 年:4 月 85 85 2 月 80 85							
		3 年:4 月 80 85 2 月 80 80							
		4 年:4 月 90 90 2 月 85 90							
		5 年:4 月 85 70 2 月 80 65							
		6 年:4 月 75 70 2 月 70 65							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	授業改善	全教員	通年	・経験5年未満及び入区1年目の教員は授業スタンダードを理解し身に付ける。(めあて、振り返り、板書等) ・小中連携 AS 虎の巻の理解と実践	・週案 ・授業観察 ・面接 (年3回) ・教員の自己評価、及び学校評価	・自己評価「よい」70% ・学校評価「よい」85%	自己評価の際に記入
2 継続	ICT 活用	全学年 全教科	通年	・端末活用① (検索・資料作成・AI ドリル等) ・端末活用② (協働学習等)	- 週案 - 授業観察 (年3回)	・週当たりの利用率80% (2学年以上) ・年間2回以上の実施	
3 継続	少人数指導	1, 2年 算数	通年	・都時間講師を活用し、低学年算数においても担任+1のグループ編成で習熟度別に指導する。	・週案 ・授業観察	・実施率85%以上	
4 継続	読書活動	全学年	通年	・学校図書館活用年間計画の作成、実施 ・読書目標の設定 ・放課後の図書館開放	・記録用個別カード ・貸出冊数 ・週案 ・調べる学習	・貸出冊数 年35冊/人 ・放課後利用 300人/月	
5 継続	夏休み 補充教室	各学年 若干名 算数	夏 休 み 10 日 間	・補充学習 (全学年) ・AI ドリル学習 (高学年)	実施前後で指標となるテスト実施。	・正答率向上	
6 継続	家庭学習 の定着	全学年	通年	・目安の周知: 15分×学年 ・家庭学習カード ・自主学習ノートの指導 ・AI ドリル学習	・左記カード ・学校評価	・宿題定着 90% ・自主学習定着 80%	

重点的な取組事項－ 2		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力調査において昨年度記録を上回る 縄跳び旬間や、持久走旬間、外部講師 招聘による運動機会の実施		・ 記録の向上： 1 0 0 % ・ 体力向上の取組： 1 0 0 %実施	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎体力の向上	・全国体力調査 8 種目の記録について昨年度の自己記録を全児童が更新する。 ・縄跳び旬間や持久走旬間の計画実施 ・外部講師を招聘し運動機会をつくる。	・体育指導の充実（年間計画に基づく授業実践） ・縄跳びカード、投力強化、持久力強化実践 ・スポーツ指導ボランティア ・外遊びの励行（休み時間） ・スポーツ推進委員の招聘	自己評価の際に記入		
生活習慣の確立 学校保健行動計画の実施	学校評価 「よい」 85%以上	・休業日明け「元気カード」 ・保健便りの活用、学級指導 ・歯の指導（全学年） ・虫歯受診率 9 0 %			
重点的な取組事項－ 3		心の醸成（規範意識・自己肯定感の向上・いじめ暴力暴言の根絶）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
他人を思いやる気持ちや共に助け合っ て生きようとする態度の育成		教員と保護者の 学校評価「よい」 9 0 %	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
規律の徹底 よい子のきまり 授業規律	・学校評価「よい」 保護者 8 5 % 教員 8 0 %	・看護日誌、生活指導朝会 ・全教科授業を通して指導 ・教職員による評価	自己評価の際に記入		
いじめの根絶 いじめをしない、許 さない心、傍観者に ならない	・いじめの解消率 100% ・新たな重大事案ゼロ ・学校評価「よい」 保護者 9 0 % ・必ず取り組む 18 項目 の実施	・全教員情報共有（週 1 回） ・いじめアンケート（年 3 回） ・迅速な校内委員会による対 応及び継続指導の実施。 ・基本方針の周知（6 月まで） ・校長講話（年 10 回） ・人権評価			

道徳授業	・指導計画に沿った実施 ・道徳授業の公開	・計画に基づき授業を行い、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。重点は、低は「礼儀」「生命の尊さ」「友情、信頼」、中は「友情、信頼」「生命の尊さ」、高は「個性の伸長」「相互理解、寛容」「生命の尊さ」 ・外部講師の招聘	自己評価の際に記入
------	---	---	-----------

重点的な取組事項－４		保護者・地域との連携協力による教育活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者、地域人材との連携 あいさつの習慣化（CS 重点目標）		・年間を通したあいさつ運動 ・学校評価「よい」85%	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学校運営協議会及び開かれた学校づくり協議会の開催	・年7回 ・年3回	・学校運営協議会による学校経営計画の承認、あいさつ運動、学習支援、学校評価 ・開かれた学校づくり協議会による学校関係者評価作成	自己評価の際に記入		
保護者との連携	・年間計画により実施 ・平時であっても児童の様子を個別に伝える。（月1回、年10回程度） ・PTA行事の参加	・学校の公開（月1回） ・担任と保護者の情報共有を日常的に連絡帳で行う。 ・PTA総会及び夏のイベントに全教員が参加			
あいさつの習慣化（CS 重点目標）	・自己評価「よい」90% ・学校評価「よい」85%	・児童会あいさつ運動の継続 ・情報の発信の強化			
交通安全、防災支援 ・交通安全ボランティア ・避難所運営	・毎日の登校の見守り ・安全指導の実施 ・交通事故ゼロ ・災害時円滑な避難所運営	・安全教育年間計画の作成、実施 ・教員とボランティアと保護者の三位一体の見守り（通年） ・地域防災との連携マニュアル			

学習支援	・農園ボランティア 農体験の実施 ・図書ボランティア 朝の読み聞かせの実施 ・スポーツボランティア サッカー、ダンス、タグラグビーの実施	・読み語り 全学年（週1） ・花づくり運動 ・サッカー教室 1，2年 ・ダンス 低学年 ・タグラグビー 3，4年 ・野球教室 5，6年	自己評価の際に記入
------	--	--	-----------

重点的な取組事項－ 5		特別活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全学級の安定 児童の自主的実践的な態度を育てる		以下に示すとおり	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学級活動	・年間指導計画の作成、及び実施 ・全12学級の安定	・月1回の校内研究研修により全学級で共通実践 ・外部講師を招聘し授業改善を推進する。	自己評価の際に記入		
児童会活動	・全8委員会で児童の発案による創意工夫ある活動を実践する。	・児童会に関わる研修を全教員で行う。			
縦割り班活動	・年間指導計画の作成、及び実施	・相手、他者への思いやりのある態度を育てるために異年齢集団の班で年間を通して遊びで交流する。。			

6 まとめ

自己評価の際に記入

